

令和8年度 前期学校評価

学校評価報告書



令和8年度7月

鬼北町立愛治小学校

鬼北町立愛治小学校 令和8年度7月

【評価基準】 A:目標を達成 B:7割以上達成 C:6割以上達成 D:6割未満の達成				4:そう思う 3:どちらかと言えば思う 2:どちらかとも言えない 1:思わない										
項目	重点目標	評価指標及び目標値	評価	学校による考察と改善方策		評価資料	評価	アンケート結果(%)						全体肯定率
				考 察	改 善 策			4	3	2	1	決定率		
ふるさとを愛する心	ふるさとの理解	ふるさとのことを素材として学習を進めることで、故郷の良さを知ることができた。	児童・保護者・教職員・地域の方の平均肯定率が85%以上	A	・児童、保護者、教職員、地域有識者の四者ともに、肯定的な評価となっている。 ・地域の方の協力を得ることで、多様な校外学習や体験学習を実施することができた。また、今年度は、新嘗祭献穀斎田での田植えも体験させていただき、学校だけでは学ぶことができない知識を得たり体験をしたりすることができ、学習を深めることができた。	①田植え体験、森林教室等により、児童は、ふるさとのよさを知ったり感じたりすることができた。2学期の学習発表会に向けて、学習してきたことを更に深められるよう継続していく。 ②学習のめあての設定の仕方やまとめ方を工夫することによって、児童が学んだことの成果をより実感できるようにする。	児童アンケート	A	100	0	0	0	100	100
					保護者アンケート	A	67	33	0	0	100			
	教職員アンケート	A	100	0	0	0	100							
	地域有識者アンケート	A	78	22	0	0	100							
	地域の人々との交流	ふるさと学習や体験活動などに地域人材を活用することで、地域の人々との交流を大切にする気持ちが育っている。	A	・児童、保護者、教職員、地域有識者の四者ともに、肯定的な評価となっている。 ・地域に出掛けたり、ゲストティーチャーを迎えたりして学習する中で、地域の方の温かさに触れたり、学習内容の理解が深まったりしたという児童の意見が多数見られた。 ・地域の方が行事の準備や環境整備などを熱心に行ってくださっていることに対して、地域の方に見守られているという感謝の思いを記した児童の意見が見られた。特に運動会の取組は児童にとって思い出深いものとなった。	①2学期に行われる学習発表会に向け、学習のまとめを工夫するとともに、探究課題の解決に向け、地域の方や家族などと積極的・主体的に関わりが持てるようにする。 ②学校運営協議会等の機会に情報共有を行うことで、各教科や様々な活動における地域の方との連携の機会を吟味し、地域の方から学んだり交流したりする場を更に充実させていく。	児童アンケート	A	100	0	0	0	100	100	
				保護者アンケート	A	67	33	0	0	100				
教職員アンケート				A	100	0	0	0	100					
地域有識者アンケート				A	78	22	0	0	100					
ふるさとへの思いと誇り	ふるさとを愛し、ふるさとのために役立とうとする心が育っている。	A	・児童、保護者、教職員、地域有識者の四者ともに、全体的に肯定的な評価となっている。 ・今年度は全国植樹祭において、愛治緑の少年団が表彰を受けた。これまでのふるさと学習の成果ととらえている。 ・地域素材を継続して活用・学習し、地域の方々と一緒に行事を行ったり、奉仕作業をしたりすることによって、ふるさとを愛する心が育ち、ふるさとのために役立とうという行動力も高まっていると感じる。	①学習で培ってきたふるさとへの思いを伝えることができるよう、資料の作成や発表練習に取り組ませる。 ②学習の過程で児童のふるさとに対する思いを汲み取り、ふるさとのために活動していこうとする意欲を高め、学習発表会で保護者・地域に発信させる。	児童アンケート	A	75	25	0	0	100	100		
			保護者アンケート	A	67	33	0	0	100					
			教職員アンケート	A	100	0	0	0	100					
			地域有識者アンケート	A	78	22	0	0	100					
学校運営協議会委員の所見				学校の対応										
・地域住民と運動会や奉仕作業を行うことで地域を愛することを学ぶとともに、地域から愛されていることを実感することができる。 ・田植え体験や地域の林業についての学習を通して、地域の産業への興味・関心を持つことは有意義である。 ・内山展望台の遠足等を通じて、町有林の歴史等を学ぶ学習は地域愛を醸成するものと考ええる。 ・例年の学習発表会では、新しい地域の発見があった。 ・全国植樹祭で緑の少年団が感謝状を受賞されたことは、日々の取組の成果である。今後も、愛治のよさを学ばせる体験活動を継続してほしい。 ・運動会では、みんなが精一杯頑張っ、とても少人数の学校の運動会とは思えないほど立派な運動会だった。 ・地域の文化芸能「五つ鹿踊り」に熱心に取り組んでいただき感謝している。				・大勢の地域の方の協力や様々な地域の教育資源によって、ふるさと学習を進めることができている。今後も地域の方にゲストティーチャーをお願いしたり、地域に出向いた活動を行ったり、学校に来てもらう機会を多くしたりすることで、地域に根差した教育を推進していく。 ・児童数が減少している状況ではあるが、地域とともにある学校として、ふるさとの良さを学び、地域を誇り、生涯にわたってふるさとに愛着を持つ児童の育成に努める。 ・今後も、学校運営協議会等で学校の行事等の在り方も含めて協議を進め、学校と地域が一体となった取組を進めていきたい。										

4: と思う 3: どちらかと言えばと思う 2: どちらかと言えば思わない 1: 思わない

項目	重点目標	評価指標及び目標値		評価	学校による考察と改善方策		評価資料	評価	アンケート結果(%)					肯定率	全体肯定率			
		評価指標	目標値		考 察	改 善 策			4	3	2	1						
互いを大切にする心	自他を尊重する心	縦割班活動など異学年集団の交流を通して、友達を理解を深め、仲良く過ごすことができている。	児童・保護者・教職員・地域の方の平均肯定率が85%以上	A	・児童、保護者、教職員、地域有識者の四者ともに、肯定的な評価となっている。 ・全校給食の取組により、コミュニケーションが深まりよい効果が生まれている。 ・校内、また他校との様々な交流活動を継続するとともに、全校遊びなど児童による主体的な企画・運営を取り入れることで、自己自身及び他者への理解を深め、良好な人間関係の構築に努めることができた。	①今後も、縦割り班活動や集会活動等、異学年での交流の機会、また、他校との交流等を大切にしたい教育課程の編成を行う。 ②学習や生活など様々な場面における児童の活動を見守る中で、適切な指導や支援を行い、よりよい人間関係づくりに努める。	児童アンケート	A	100	0	0	0	100	100				
	気持ちのよい挨拶	返事やあいさつ、言葉遣いなどの基本的生活習慣を身に付けることができています。	B	・概ね良い評価となっているが、教職員と児童の中に、一部低い評価が見られる。 ・教職員アンケートの意見では、もっと丁寧な言葉遣いにしていきたいとの意見が見られた。挨拶については、元気の良い挨拶ができたという意見が多数見られた。 ・児童の中にも、丁寧な言葉遣いができなかったという意見が見られた。時と場所に応じて、相手を意識した気持ちの良い言葉遣いができるよう継続した指導が必要である。	①概ね元気の良い挨拶ができていますので、挨拶の意義を捉え、挨拶を通して更に多くの人との心の交流が図れるよう繰り返し指導していく。 ②全体の場で、気持ちの良い挨拶や言動をとることができている児童を称揚し紹介することで、児童の自己肯定感を高めるとともに、互いに気持ちの良い挨拶・言葉遣いを心掛けていこうという意識を高めさせる。	保護者アンケート	A	67	33	0	0	100	85					
						教職員アンケート	C	33	33	33	0	67					100	
						地域有識者アンケート	A	67	33	0	0	100						
						児童アンケート	B	50	25	25	0	75		100				
	個に応じた指導	先生が困ったことや悩みなどを聞いてくれたりアドバイスをしてもらったりすることで、楽しい学校生活を過ごすことができています。	A	・児童、保護者、教職員の三者ともに、肯定的な評価となっている。 ・学級担任の日々の観察や会話だけでなく、養護教諭・スクールヘルスリーダー、スクールソーシャルワーカー、教育活動支援員との連携を図り、学級担任以外が積極的に児童に声を掛け、児童の多面的な理解を深める取組を行うことができた。	①引き続き、教育相談や情報交換を定期的に行うことで、全教職員が連携して児童理解に努め、共通理解の下で指導・支援を行っていく。また、悩みを抱いた児童が相談しやすい雰囲気構築に努める。 ②児童の気になる言動等について、課題の早期解決に取り組んでいくとともに、児童の自己有用感を高めるための肯定的な声掛けに努める。	保護者アンケート	A	33	67	0	0	100	100					
						教職員アンケート	A	100	0	0	0	100					100	
						地域有識者アンケート												
														100				
	学校運営協議会委員の所見	・他校との積極的な交流学習を行い、人間関係の構築等の学びを深めてほしい。 ・来校者に元気のよい挨拶ができています。 ・1学期は大洲青少年交流の家利用学習などの他校との交流は、お互いを成長させる活動であったと思う。また、誕生会が継続して行われていることも一人一人を大切に思う心の育成に繋がっていると思う。				学校の対応	・自分の考えを豊かに表現したり、友達と考えを交流したりする場面を意図的に設定することにより、互いの立場を考えながら良さを認め合うとともに、自他共に大切にしようとする児童の育成に努める。 ・全教職員が連携して児童の課題の解決に努めているが、アンケートでは言葉遣い等がやや低い評価となった。今後更に、子どもの発達の段階とその特徴を踏まえ、一人一人の個性を理解して児童に向き合うことで、自信を持って支援していきたい。											

4: そう思う 3: どちらかと言えばそう思う 2: どちらかと言えば思わない 1: 思わない

項目	重点目標	評価指標及び目標値	評価	学校による考察と改善策		評価資料	評価	アンケート結果(%)					前定率	全体算定率
				考 察	改 善 策			4	3	2	1			
学び続けるたくましさ	主体的な学び	個別最適な学びと協働的な学びにより、学習意欲を高め、主体的に学習を進めることができる。	児童・保護者・教職員・地域の方の平均肯定率が85%以上	A	・児童、保護者、教職員、地域有識者の四者ともに、肯定的な評価となっている。 ・高学年はデジタル教科書を活用し、自ら授業の学習計画を立て、その計画に沿って自ら学習を進めることができるようになってきた。 ・学習のまとめや集会の準備など、ICT機器を活用することによって、様々な場面で、意欲的・主体的に活動することができた。今後も活用を効果的に設定していきたい。	①教職員のICT活用のスキルの向上を目指した研修等を継続する。また、各学級での取組について情報交換を行い、有効な活用を学校全体で進める。 ②教師の多様な問いかけによって児童自身が深く考えるきっかけを与えたり、児童が興味を持ったことについて探求できるような学習機会を増やしたりすることで、自ら学ぶ姿勢を育てる。	児童アンケート	A	100	0	0	0	100	100
	対話的な学び	学習形態の工夫により、自分の思いや考えを主体的に、より良く伝えることができる。	A	・児童、保護者、教職員、地域有識者の四者とも肯定的な評価となっている。 ・集会における他学年との交流や他校との交流を通して、自分の意見を伝えようとする意欲が高まっている。更に、相手の意見を受けて考えを広げたりまとめたりすることができるようにしていきたい。	①教師がファシリテーターとしての役割を担うことで児童同士の対話を促し、学びを深めることができるよう工夫していく。 ②集会活動を工夫し、いろいろな発表の場を設定することで、自分の思いや考えを自信を持って伝えられるよう、発表の機会の確保とともに内容の充実に努めていく。	保護者アンケート	A	33	67	0	0	100		
						教職員アンケート	A	33	67	0	0	100		
						地域有識者アンケート	A	67	33	0	0	100		
	深い学び	体験活動や協働的な学びにより、学習したことへの理解を深め、様々な場面で活用することができる。	A	・児童、保護者、教職員、地域有識者の四者とも、肯定的な評価となっている。 ・児童はふるさと学習や北高との連携学習等、様々な体験活動や協働的な学びに主体的に取り組んでいる。様々な学習や活動を通して、児童が自己の成長を自覚できるような指導・支援を推進していきたい。	①児童が学習した成果を実感できるよう、個々の児童の資質・能力の向上に努めていく。また、体験活動等で協働的に学んだことを生かしながら学習を更に深めることができるよう授業改善を進めていく。 ②学習の振り返りをもとに、個に応じた課題を設定することで、次の学習への意欲を持たせることができるよう指導・支援に努める。	児童アンケート	A	50	50	0	0	100	100	
						保護者アンケート	A	33	67	0	0	100		
						教職員アンケート	A	33	67	0	0	100		
						地域有識者アンケート	A	56	44	0	0	100		
	学習習慣・読書習慣の確立	家庭でも学習や読書を進んで行い、学習したことをきちんと身に付けている。	A	・児童、保護者、教職員の三者とともに、肯定的な評価となっている。 ・読書、自主的な家庭学習に関しては、概ねどの児童も前向きに取り組んでいるが、個人差は大きい。 ・「本屋へ行こうプロジェクト」の成果が見られた。 ・「自分の課題を見つけ、主体的に学ぶ」児童を育てるため、レベルアップノートの充実や効果的な家庭学習について工夫していきたい。	①家庭学習の意欲化を図ることができるよう、レベルアップノートや一人一台端末の活用を工夫していく。 ②みきやん通帳の活用や読書賞の実施、「本屋へ行こうプロジェクト」の図書の活用等によって読書に親しむ態度を育てるとともに言語能力の育成を図る。	児童アンケート	A	100	0	0	0	100	100	
						保護者アンケート	A	33	67	0	0	100		
						教職員アンケート	A	33	67	0	0	100		
						地域有識者アンケート								
学校運営協議会委員の所見				学校の対応				・今後もICTの効果的な活用、多様な学習形態や学習活動の工夫によって、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に努める。 ・ふるさと学習や連携学習の学びを、日々の学習に生かしていく取組を工夫していく。 ・みきやん通帳や集会等でおすすめの本紹介を継続して実施することにより、読書に親しむ態度を育てる。 ・eスタ等のデジタル教材の活用によって、文章に親しんだり、読解力を高めたりすることで、児童の言語能力を育成する。						

【評価基準】 A:目標を達成 B:7割以上達成 C:6割以上達成 D:6割未満の達成

4:そう思う 3:どちらかと言えばそう思う 2:どちらかと言えば思わない 1:思わない

項目	重点目標	評価指標及び目標値		評定	学校による考察と改善方策		評価資料	評価	アンケート結果(%)					
		評価指標	目標値		考 察	改 善 策			4	3	2	1	肯定率	全体肯定率
資質・能力向上	現職教育・研修活動	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた研修に励み、授業改善や指導に生かすことができた。		A	・学力・学習状況調査等の結果から、児童の学力や学習状況の傾向を把握することができた。結果を基に、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組んでいきたい。	①児童が「学ぶことに興味や関心を持つ」ことができるよう、授業者による授業の改善の視点と学習者における学びの改善の視点を相互に捉えながら、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。	教職員アンケート	A	0	100	0	0	100	100
	危機管理体制	危機管理意識を高く持ち、速やかな報告・連絡・相談を徹底することができた。			・報告・連絡・相談が迅速に行われ、課題の早期解決や事故等の未然防止に努めることができています。 ・全教職員が、児童の様子などを情報共有し、共通理解の下で指導・支援に努めることができています。	①今後も、報告・連絡・相談を迅速に行うことで、事故等の未然防止に努める。 ②情報交換を密にし、一層の児童理解を深めるとともに、問題の早期発見・解決に努める。	教職員アンケート	A	67	33	0	0	100	
	働き方改革	温もりと規律ある協働体制を整えることで、勤務時間の削減とともに教職員の資質・能力の向上や人材育成ができた。			・個々の教員が抱える業務が多く、負担はあるが、互いに連携・協働して課題に取り組むことができ、非常勤講師等との連携を深め、チームとして課題に取り組み、より充実した教育活動が行えるような体制づくりを目指したい。	①仕事のやりがいを重視しつつ、「業務量を減らすこと」「効率的に作業を進めること」「時間の使い方を見直すこと」の3つの観点から業務改善に取り組み、ライフ・ワークバランスの充実を目指す。	教職員アンケート	A	67	33	0	0	100	
	情報公開・管理	学校等の取組を積極的に発信するとともに、個人情報の保護・管理の徹底に努めた。			・各種通信やホームページ等を通じて学校や学級の取組を発信することは、学校・家庭・地域の連携のために重要である。個人情報の管理をきちんと行いながら、取組の発信・啓発に努めたい。	①今後もホームページや各種通信によって、児童の活動や成長の様子を発信することで、地域に親しまれ、信頼される学校を目指して取り組んでいく。 ②デジタルツールを活用した効率化・セキュリティ強化を進めていく。	教職員アンケート	A	67	33	0	0	100	
	資質向上	目標チャレンジを意識して活動に取り組んだ。			・各自の実践や成果を振り返りながら前期のまとめを行うとともに、後期の目標設定や取組につながるようにしていく必要がある。	①学校教育目標の実現に向け、組織の一員としての自覚を持って取り組んでいく。 ②前期の取組の検証し、後期の目標設定に反映させるようにする。	教職員アンケート	A	67	33	0	0	100	
学校運営協議会委員の所見					学校の対応		・教師一人一人の専門性を高めるとともに、多様な専門性を持つ人材との関わりを持ち続けることで、資質の向上に努める。 ・仕事のやりがいを重視しつつ、業務改善に取り組み、ライフ・ワークバランスの充実を目指す。 ・地域の方々の協力を得ながら、少人数のメリット生かした、より良い学校運営を工夫していく。 ・児童が主体的に取り組む協働的な活動を通して「絆づくり」を行うことで、児童が安心して充実感を感じられる環境づくりに努める。							